# はままつ案内人会報

2025 年 8 月号
277 号

浜松観光ボランティアガイドの会

## 夏休み子供講座「浜松偉人伝　ものづくり先駆者の挑戦」

７月 27 日(日)、小学校３年から６年を対象に夏休み子供講座「浜松偉人伝　ものづくり先駆者の挑戦」が浜松市福祉交流センターで開催されました。この講座は、毎年当会の事業部が企画しているイベントのひとつで、市内９つの小学校から児童 13 名と保護者 11 名が参加して行われました。

最初に当会の大見会長から「浜松にゆかりのある偉大な人々のお話を聞いて、夏休みの自由研究の参考にしてください」とあいさつしました。

講師の齋藤氏

その後、事業部の齋藤さんから、昔の浜松はどんな町だったのかを説明し、それから具体的に浜松にゆかりのある人物を軸にして、浜松の産業について解説がありました。

徳川家康が造った浜松城は出世城と呼ばれ、浜松市は地方の都市でも世界的に有名な企業がある「出世の街」です。

何でもやってみようというチャレンジ精神が浜松では「やらまいか精神」です。このように挑戦しようとする精神から生まれた世界的企業が浜松にあり、数多くの実業家を輩出しています。

浜松の農家では、江戸時代終わり頃から副業として綿花の生産が行われ、そのことで繊維産業が盛んになったことを、自宅で栽培した綿花を見せながら説明しました。

当時は手作業で行っていた機織りを機械で行う「動力織機」を発明し、起業した実業家が豊田佐吉、鈴木道雄です。この自動織機の発明により、浜松は綿織物の一大産地となりました。

浜松偉人伝の説明

同時代には山葉寅楠が小学校にあるアメリカ製のオルガン修理したことをきっかけに、「山葉風琴製作所（のちの日本楽器）」を起業して、ピアノの製造を始めました。その後、同所の技師だった河合小市も「河合楽器研究所」を創設し、楽器産業の発展に貢献しました。

楽器産業の説明では、漢字の読み方クイズに答えてもらいました。口風琴(ハーモニカ)は、子供たちから直ぐに回答が出てきましたが、手風琴(アコーディオン)は、なかなか読めずに苦労していました。

戦後は、輸送機器の分野において、本田宗一郎がモーターバイク産業を起こして本田技研工業を創業し、鈴木道雄も鈴木自動車工業を創業しました。さらに、山葉寅楠が創業した日本楽器からは、オートバイ製造事業として、ヤマハ発動機が独立しました。

講座を熱心に聞いている受講者

また、技術者でも浜松ゆかりの優れた偉人が輩出しています。浜松高等工業学校で教鞭をとりながら、世界で初めてブラウン管テレビを開発した高柳健次郎、彼の教え子で浜松テレビを創業した堀内平八郎です。

最後に「青色発光ダイオード」を発明し、2014 年にノーベル物理学賞を受賞した広沢小学校出身の天野浩氏の業績について紹介しました。

参加した子供たちからは、「やらまいか精神の意味がわかってよかった」、「河合楽器が作っている楽器は主にピアノだけだと初めて知った」と驚きの声がありました。また、「少し難しかった」、「偉人のことについて、もっと詳しく知りたかった」との意見もありました。

講座を受講した子供たちには、説明した偉人の資料館の資料を配布しました。資料館を訪問し、自分たちの目で確認して夏休みの宿題に役立てていただければと思います。

事業部　長松谷晃徳（東ブロック）

# 小学生と巡る家康の散歩道と浜松城

６月 25 日（水）に東小学校の６年生 54 名を案内して「家康の散歩道」をめぐる同行ガイドを実施した。前の週の天気が良過ぎたため、当日の天気がかえって心配になったが、当日は予想外の晴天となり、逆に暑さ対策が必要になった。

浜松八幡宮の説明

１組が８時 30 分に八幡宮へ向けて小学校を出発し、約５分遅れて２組が出発した。八幡宮には、「茅の輪くぐり」「雲立ての楠」「ざざんざの松」「松島十湖の句碑」と説明すべき所が多かった。八幡宮を出発する前に、次の「椿姫観音」の説明を済ませたため、椿姫観音での時間を短縮でき、暑さ対策として有効だった。炎天下の歩道を歩いて、元目口から東照宮へ向かう途中、西側の古城の土塁を見上げたら、土塁が崩れてできたへこみを修復したような跡が見られた。

雲立ての楠の前で

社務所の前の日陰で休憩、水分も補給した。手水鉢の水で手を冷やしたり、タオルを濡らして首を冷やしたりした。

東照宮の次は浜松城見学である。芝生広場でクラスごとに写真を撮った後、天守閣へ向かった。天守閣への入退場時、天守閣内での混雑を懸念したが、スムーズに交代できた。

公園南広場での説明

鎧掛けの松の前の広場で休憩の後、最後の目的地秀忠の井戸へ一直線に歩道を下った。「さあ、学校へ戻ろう」、児童たちの足取りも軽やかになったように感じられた。猛暑の中、全員無事に学校へ戻ってくることができてよかった。児童たちもガイドの説明をしっかり聞いてくれたと思う。

（追記）新人の渥美恵子さん（27 期南ブロック）がガイドに参加したのは、東小学校の６年生が渥美さんの教え子だったためで、本人の希望で学校へは伏せておくサプライズ参加だった。ガイド終了のあいさつが終わった後、数人の女子児童が渥美さんと抱き合って別れを惜しむ姿は、私たちの疲れを癒すほど温かいものだった。

事業部　大隅康夫（南ブロック）

# 研修部ミニ研修　第３村のモデル地「天竜二俣駅」と周辺史跡巡り

2025 年６月 19 日（木）浜松観光ボランティアガイドの会研修部の現地研修として、天竜二俣エリアのミニ研修を開催、９人で行ってきました。

スタートは遠州鉄道西鹿島駅。徒歩にて筏問屋旧田代家住宅、鳥羽山城跡、二俣城跡、清龍寺、本田宗一郎ものづくり伝承館、森のマルシェきころ（昼食）、ＳＬ公園、天竜二俣駅（「転車台＆鉄道歴史館見学ツアー」に参加）と盛りだくさんのコースを行脚しました。30℃越えの真夏日となり、メンバーで助け合いながら楽しく約５ｋｍのウォーキングをしました。

天竜浜名湖鉄道車両基地にて

お昼は「森のマルシェきころ」（2023 年２月オープン。野菜から鮮魚、お弁当やスイーツまで販売する地域交流施設）の２階解放エリアに席を特別に用意していただき、天竜の食材をふんだんに使った美味しいお弁当を楽しみました。

天竜浜名湖鉄道が毎日開催するガイド付きの転車台見学ツアーでは、エヴァンゲリオンで話題のスタンプラリーやロンギヌスの槍（アニメに登場する強力な武器）を見学、登録有形文化財の車両基地（扇形車庫・転車台）他、天竜浜名湖鉄道の貴重な資料や文化財を堪能しました。天竜二俣駅は「シン・エヴァンゲリオン劇場版」に登場する「第３村（だいさんむら）」のモデル地の一つで、そのことを強く意識したＰＲが行われています。

６月でエヴァストアは一旦閉店となるそう。今後イベントもあるそうなので、ガイドとして積極的に情報を取得して、浜松に来られる皆さんに案内できるよう、私たちも勉強しましょう。

研修部　原田隆史（北ブロック）

## 会員の交流広場

## 「浜松戦災復興巡り」に参加して

五社神社で説明する西ブロック磯部さん

今年は戦後80年の節目の年。これに合わせて西ブロックで企画したミニ研修に参加しました。参加者は西ブロック11名の他、他ブロックから３名、そして「プロギング」の講師でもあり、いつも浜松城でお世話になっている遠鉄アシストの佐野さんで計15名でした。プロギングは「ジョギングをしながらゴミ拾いをするスウェーデン発祥のフィットネス」とのことです。今回初めて研修をしながらプロギングを体験しました。普段なら見て見ぬふりの路上ゴミを拾い、終了後はすがすがしい充実感を味わうことができました。

研修は、開始時に資料の配布と太平洋戦争時に浜松が受けた空襲について解説がありました。浜松市は全国屈指の27回もの空襲（艦砲射撃含む）受けていて、特に昭和20年６月18日の空襲では死者1,000人以上、当時国宝だった五社・諏訪神社も焼失という甚大な被害があったとのことです。当時浜松城本丸にあった齢松寺は、昭和20年４月30日の空襲で焼失したとのことです。

浜松城公園せせらぎの池を９:30にトングを片手にスタートし、①浜松市戦災被爆者慰霊碑→②被爆プラタナス→③朝日親善植樹碑（①②③は浜松城公園内）→④市営松城アパート跡（中央図書館西側）→⑤五社神社裏の防空壕→⑥旧浜松警察署（現：鴨江アートセンター）→⑦旧浜松銀行協会集会所（現：木下恵介記念館）→⑧旧浜松市役所跡（現：五社公園）→⑨浜松復興記念館→⑩五社神社、というコースを巡り、お昼前にせせらぎの池へ戻ってきました。参加最年少40代の磯部さんが自作の資料で現地解説をしてくれました。研修後には冷たいゼリーや飲み物の用意もあり、至れり尽くせりでした。

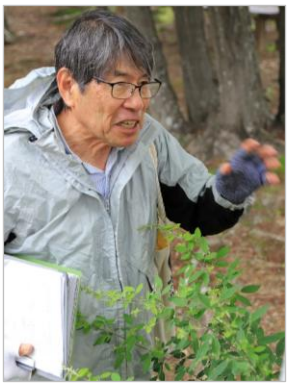
今回の研修で、浜松は太平洋戦争での空襲で甚大な被害があったと改めて痛感しました。今後もミニ研修に積極的に参加して、交流や知識の研鑽に努めたいと思います。

北ブロック　都築厚好

## 西ブロックミニ研修　浜松城公園　緑の散策

５月27日(火)西ブロック定例会後、浜松城公園の「せせらぎの池」に集合し、ミニ研修を行いました。参加は西ブロック18名、他ブロック７名　計25名、講師は西ブロックの高橋謙治さんと堀内映さんの二人です。13時に、高橋班と堀内班の２グループに分かれ、スタバの北側からスタート。せせらぎの池を半周して中央芝生広場の西側を巡り、葵の小径を通過。その後、松・竹・梅がある日本庭園を北から南に抜け、市民の木「プラタナス」がある西端城曲輪まで約1時間半のゆったりとした散策でした。ほんの数百mの移動ですが、コナラ、ガマ、イグサ、ナツツバキ、シイノキ、フタバアオイ、イロハモミジな実に様々な種類の草木があり、それらを丁寧に説明してくださる講師の博識と熱意に感動しました。なかでも印象に残っているのはエゴノキです。その果実の皮は、えぐい味でエゴノキと呼ばれますが、魚毒性を示し魚の捕獲に利用されたようです。その英名はsnowbellと言うおしゃれな名前で、白い鈴のような花を咲かせ、その花びらは散ると地面に雪が降ったようであることから命名されたとのこと。

草笛を吹く高橋さん


熱く語る堀内さん

突然の高橋さんの草笛パフォーマンスや昆虫博士堀内さんの草木にも寄せる熱い語りにより、新緑が美しい浜松城公園の新たな一面を垣間見ることができ、大変有意義な時間となりました。

広報部　長田勝久(西ブロック)

## 会員の交流広場

# 遠州大念仏の新しい取り組み

「今年も西ヶ崎組の遠州大念仏を見せる場所がほしいです」と、４月に大念仏西ヶ崎組組頭の川合正泰さんからお話がありました。昨年、コロナ禍で後継者不足のため、活動を休止していましたが、西ヶ崎にある蔵泉院にて大念仏を披露し、２名新規にメンバーも増え今年は 18 名でスタートしました。

蔵泉院にて西ヶ崎組の踊り

現状を知るために、大念仏があると聞けば見に行きました。６月 22 日(日)に旧鈴木家の万斛庄屋公園で「庄屋の四季」という地域の活性化をはかるプロジェクトの中で、橋爪東組の大念仏体験がありました。後継者不足と初盆依頼の減少から存続の危機を感じて３年前から年間を通して、体験会を実施し８名増え、現在 25 名で活動しています。

遠州大念仏保存会は全体で 74 組所属し、41 組が活動中、初盆依頼はかなり少なく１軒あればよいという組もあるようでした。西ヶ崎組は、今年は３軒依頼があり、７月 13 日(日)に２軒あり見に行きました。念仏はメンバーでない経験者も協力していました。見学者は少なかったです。

７月 15 日(火)、「犀ヶ崖資料館」にて恒例の大念仏。この日は２組あったので、町による踊りの違いを知ることができました。新原下善組は地面に背を付ける動きなどが激しく、早出組は太鼓持ちが女性でした。暑い日でしたが、終了後は演者も観客も笑顔で帰っていく様子が印象的でした。

保存会本部の生熊孝至会長と寺島組の組頭の大村厚さんにお話を聞きました。寺島組は現在 48 名が在籍し、イベントを中心に活動し、今年から介護施設の慰問等にも行くようになったそうです。会長も総会の時、各組がそうした取り組みをしてほしいと話されたとのことでした。

犀ヶ崖にて早出組の踊り

そうして迎えた７月 27 日(日)。蔵泉院さんで西ヶ崎組の大念仏が披露されました。「舘山寺ランタンプロジェクト」とのコラボにより、境内は 130 基のフュアーハンドランタンの明かりの中、西ヶ崎組による念仏踊りを今年も見ることができました。16 時から体験会も行い、19 時 30 分より近くの公会堂をスタート。暑い中、生熊会長、副会長、寺島組、橋爪東組、上島組などの方々が見に来てくれていました。

７月 31 日(木)アクトシティ浜松大ホールで開催された「道をたずぬる絵巻物」の舞台のオープニングに寺島組が出演されました。持ち時間は半分の 15 分間のみ、太鼓きりが始まったところまででしたが、初めて見たという声がたくさん聞け、郷土芸能としてだけでなく、新しい形の見せ方があるのだなと感じました。今後、こうした新しい大念仏の見せ方が地域に増え、継承者も増えていくことを願います。

中ブロック　久保田絢子

## ７月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。
また、この３カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

**≪浜　松　城≫**

実績なし

**≪浜松まつり会館≫**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ４日 | 金 | 豊橋市西郷校区文化協会 | 35 名 |
| ８日 | 火 | 御殿場市原里地域福祉推進委員会 | 24 名 |

**≪犀ケ崖資料館≫**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ２日 | 水 | 浜松市立北浜北小学校 | 49 名 |
| ８日 | 火 | 浜松市立芳川小学校 | 114 名 |

**≪同行ガイド≫**

実績なし


はままつ案内人会報　277号
編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946　浜松市中央区元城町 100-2　(浜松城内)
ＴＥＬ　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　https://www.hama-svg.jp/
はままつ案内人　検索